

## 園名

品川区立二葉幼稚園

## テーマ

ボール



## テーマ設定の理由

昨年度、9月より「ボール」をテーマにして取り組んできた。幼児は「情動・感情(楽しい!面白い!)」と「認知・思考(~してみよう、試す)が行ったり来たりしながら遊びを楽しみ、思考力や探究心が育まれる。また、心が動き、自然と体が動く中で、「こうしてみようかな」「こうかもしれない」「やっぱりそうだ」など体全体を使って思考する。ボールは子どもにとって身近なもので、非常に変化に富み、軽くて柔らかいので使いやすく安全であり、一人でも大人数でも楽しく遊べる。幼児期に重要な人間関係をつなぐものとなる、などの特性があり、幼児の「好奇心・探究心(わくわく)」育むことができるのではないかと考え、今年度も継続してテーマを「ボール」にした。

## 活動スケジュール

令和7年4月～令和8年2月 10回程度

4歳児・・・様々なボールを使って・的に向かって投げる  
ころころコースを作って遊ぶ など

5歳児・・・用具とボールを組み合わせて遊ぶ・友達と  
一緒にドッジボールを楽しむ など

## 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・幼児の興味・関心から様々な大きさ、素材、柔らかさのボール。
- ・幼児が作った物も遊びに取り入れながらボールを打つ・受け取るなどして遊べるように遊びの場を保障する。  
(廊下・前庭 園庭・プイルーム)
- ・どのようなボールが自分のしたいこと、友達と一緒にしたいことを実現することができるのか幼児が体験を通して考え、自分たちで作れる素材(段ボール・テープ・柔らかい紙・ビニールテープ・ビニールなど)を用意した。

# 活動事例① ～ボールころころ～ 4歳児

## 活動の内容

自分なりに考え、様々な素材を使って自分で作ったボールを斜面や牛乳パックで作ったコースに転がして、遊ぶことを楽しむ。

## 活動の様子

活動中の子供たちの姿・声・子供同士や子供と保育者との関わり

振り返りによって得た保育者の気づき

- 身近にある「転がる物」を使って坂道を転がすと、勢いよく転がっていくことに気付き、どんな物だと転がるのか？  
様々な転がる物を探し、試す様子が見られた。
- ボールが坂道を転がる面白さを味わい、繰り返し遊ぶ中でどんな坂・コース(勾配)を作ると、よく転がるのか考えたり、試したりする姿が見られた。
- 転がるボールを自分で作ってコースを転がすと、途中で止まったり、ゴールまで転がったりする。どうしたら最後まで転がるのか？友達と一緒に自分の予想などを話ながら試す姿が見られた。

### ◇環境

・幼児が経験したことが継続して楽しめるように、転がり方の違いが試せるような材料を用意しておいたことで、様々な試しができた。(写真①)

### ○援助

・【子どもの考え、思いを明確化する】・・・幼児のやりたいことや試していることを具体的な言葉にして受け止めることで、幼児の考えたことが自分でも意識でき、友達にも伝わっていった。(写真②・③)



写真①



写真②



写真③

# 活動事例② ～ドッジボール～ 5歳児

## 活動の内容

クラスの友達と相談し、自分たちで、大きなコート(びゅんびゅんコート)と少し小さめの「ゆったりコート」を作り、自分のやりたい場で友達とドッジボールを楽しむ。

## 活動の様子

### 活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり

### 振り返りによって得た保育者の気づき

- 遊び始めに自分たちで長さの違うラインテープを使ってコートを作る。
- 遊び始めに人数を揃えたりルールを確認したりしながら遊ぶ姿が見られた。人数が足りない時はどうしたらよいか、友達と相談したり案を出したりして話し合う姿が見られる。
- 自分のペースでゆっくりボールを投げたり受け止めたりした幼児は「ゆったりコート」で自分ができるようになったことを嬉しそうに教師に伝える姿が見られる。教師や友達に認められることで、自分からびゅんびゅんコートに移動していた。
- 学級対抗での試合では、「○ちゃんのボールは早いよ!」「ボールを取ったらすぐ投げるといいんだよ」など、友達を認めたり、やり方やコツを友達に伝えたりする姿が見られた。

- ・長さが異なるラインテープを使って自分たちでコートを作っている。テープの長いもの・短いものそれぞれにマークを付けるとより大きさが予想でき、幼児が自分たちで人数に応じた大きさのコートが作れるのではないかと。教材研究を深めることが大切。(写真①)
- ・遊び始めに幼児が自分たちで人数を合わせたり、ルールを確認したりしている場面を捉えて自分たちで考えながら進めていることを具体的に認めていくことで、一人一人の自信につながっていくのではないかと。(写真②)
- ・ゆったりコート(写真③)では、自分の目当てに向かって安心して遊べるように、チャレンジしていることを十分に認めていくことで、自分からびゅんびゅんコート(写真④)に入っていく姿が見られた。安心して自分の力を発揮できるようにしていきたい。
- ・ボールを使った遊びは多様な体の動きを引き出すだけでなく、人との関わり・長さや大きさなどの数量の感覚・自分たちの遊びをもっと面白くしていくためにどうするとよいか?など、幼児が友達と一緒に「考える」機会になっている。



写真①

もう少しでコートができるよ。



写真③

私、ボールをキャッチできたよ!



写真②

赤組の人数が足りない。どうしようか。



写真④

ボールをよく見て動くよ。